

授業概要

江戸後期の漢学者・頼山陽によって記された『日本外史』は、源平から徳川氏までの武家一族を漢文体で記述された歴史書であり、幕末期においても広く愛読されてきた。漢文と言っても日本の有名な戦国武将も多く登場するため、受講者にとって親しみやすい教材である。本講座では現在の高校教科書の復習から入り、漢文訓読に必要な技能を確認しつつ戦前の旧制中学の教科書を読む。さらにその後、頼山陽の孫弟子にあたる西川文仲が詠じた『日本外史楽府』の該当箇所を併せ読むことで漢文と漢詩を比較した講義を行なう。

授業計画

第 1 回	ガイダンスー『日本外史』と『日本外史楽府』についてー
第 2 回	閉塩ー上杉謙信ー（教科書「所争在弓箭」）
第 3 回	白布裏面ー上杉謙信ー（教科書「信玄何在」・「題不識庵撃機山図」）
第 4 回	一矢断扇轂ー那須宗高一（教科書「那須宗高」）
第 5 回	池月磨墨ー佐々木高綱ー（教科書「宇治川の先登」）
第 6 回	東国男子ー平知盛ー（教科書「壇ノ浦」）
第 7 回	七生殺賊ー楠木正成・正季ー
第 8 回	雁行乱ー源義家ー
第 9 回	鶴越ー源義経ー
第 10 回	衣錦帰郷ー斎藤実盛ー
第 11 回	船上山ー名和長年ー
第 12 回	土兵刺肋ー明智光秀ー
第 13 回	国家安康ー徳川家康ー
第 14 回	凹処布陣ー真田幸村ー
第 15 回	厳島ー毛利元就ー
第 16 回	学期末試験

到達目標

- 江戸明治期の漢籍に触れ、その内容を理解できる。
- 漢文（散文）と漢詩（韻文）の違いを理解できる。
- 楽府と近体詩（絶句・律詩など）の形式の違いを理解できる。

履修上の注意

授業は毎回配布するプリントを中心に行うため、授業中のメモや記述が必要となる。授業中にフォームによる出欠確認とオンラインによるリアクションペーパーを行う。また、作業をしながら講読するため、蛍光ペンなど鉛筆（黒）以外のマーカーを持参すること。

予習・復習

授業は毎回配布するプリントを中心に行うため、授業中のメモや記述が必要となる。授業中にフォームによる出欠確認とオンラインによるリアクションペーパーを行う。

評価方法

学期末試験 70%、受講態度やリアクションコメントの内容 30%

テキスト

- 教科書名：
- 著者名：
- 出版社名：
- 出版年 (ISBN)：